



RD4 02.10.1.

「今村可乃大刀自」

十年祭をお迎えして

生麦教会では、去る九月二十三日、先代教会長であった今村可乃（かの）大刀自の十年祭が伝えられました。

今回は、大刀自の養女となり共に御用されていた、今村久子先生にインタビューさせて頂きました。

☆久子先生から見た可乃先生はどんな方でしたか？

「親族やご信者さんで『怖い』と言っておられた人もおられました。私が、私はそうは思わなかったです。大きな声でハッキリものを言う方だったので、ビックリされた方もおられたでしょうけど、こちらの言うことを聞いてくれるような優しい一面も先生にはありました。色々な苦勞をしてこられたた

めか、人に優しい心で接しられていました。」

☆心に残っているお言葉などがありませんか、お聞かせください。

川でスベって山でコロんで…とってきました  
**interview**  
第2回 今村久子先生 (生麦教会)

「先生はよく『信者さんが泣きながら参拝に来られたら、



笑って家に帰られるようにしてあげなければならぬ』と言っておられました。それは、ご祈念やお取次、お話をしたり聞

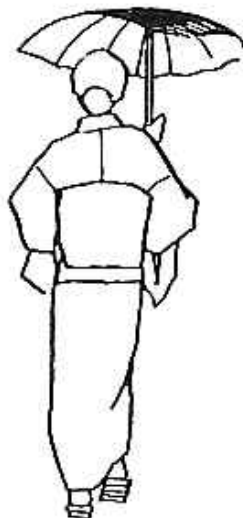
いてあげたりすることで、その方が元気になるように心掛けるということだと思えます。

亡くなられる数年前に一代話を

聞いていて、その時私が『いつ頃が一番大変だったの？』と尋ねたのです。先生は『次々と夫や子供達が亡くなっていた頃だね』と言われました。次に『じゃあ、どの頃が一番幸せだったの？』と聞きますと『そりや今だよ。今が一番幸せだね。』という返事が返ってきました。

三十歳を過ぎてから、女一人で御用されてこれ、色々と苦勞を重ねられてきた可乃先生でしたが、晩年は必死のご祈念の中にも穏やかな生活を過ごされ、眠るようにお国替えされました。

私たちもこの十年祭を期に、先生の神様へ一途な信心を改めて頂いて行かなければいけないと思つてます。」



— 則 —

緊急投稿

今一度  
連合会を考える

平成十年十二月、天地書附に基づき、生神金光大神取次の働きをもって、世界人類を助けたいとの天地金乃神の御神願を実現するために、教会を含めた教団の布教体制の確立を求めて制度改正が行われた。

あれから四年、教会連合会は教師・信徒が連帯し、自由な発想のもとで活動する中に、自発性や自立性・主体性は生れてきたのであろうか。

平成十年の制度改正では連合会に、  
― 教会が連帯して①地域における教団活動を推進するため、②教会活動の互助連絡を行い、③教区活動を担う。― という役割を規定し、教会・教会連合会と教団を一本のラインで結ぶことで求心力を高め、組織の多様性が求められるようになってきた。  
こうして文字にしてしまうと数行で

終ってしまうが、この間、当連合会にも、人材の乏しい中、事業や企画などが色々な方面から求められてきた。

そんな中、今日までの連合会長には、教区活動を担うために、その計画及び重要事項を協議する教区委員会への出席。また、首都圏における布教と連帯を進め、金光大神の信心を世界に展開していくための諸活動に取り組むことを目的とした、首都圏の教会連合会の集りであるフォーラム会議への出席。神奈川山梨教会連合会では、三役会議・運営会議・総会等の開催。さらには、事業計画に伴う企画や行事への参加。各教会の記念祭・葬儀などへの出席。そして、自身の教会での結界取

次を中心とする救済・育成・布教・奉仕の各種の活動・儀式を行う。などなど、連合会活動の多様化に伴って肩の上に乗る負担が大きくなってきたように思う。  
教会は基本的には、信仰・人・財に自立している。その教会の活動にムリが出てくるようでは何も立ち行かなくなっ

てしまうのではないだろうか。このよ  
うなムリを身近に見ながら、教団・教会連合会・教会・信奉者がそれぞれの立場で、同じ願いである神願成就に向かって自立し連帯することが望ましいのではないかと思わずにおれない。  
神奈川県も山梨県も百十年というお年柄を迎え、それに伴う事業が発案される中、皆が、そして皆で、担い合う活動、負担感にとらわれることのない活動を模索し、神奈川山梨教会連合会にふさわしい連合会活動を築いてみたい。

― 横山 光雄 ―

木本紀義教会連合会長  
辞意表明

去る8月15日の三役会議の席上で、木本連合会長から一身上の都合により連合会長を辞任する旨、願いが提出されました。

これを受けて、8月31日に運営会議を開催、対応が協議されました。そこで、10月12日に臨時総会を開催し、辞任の経過説明と今後の取り運びについての話し合が持たれることになりました。

神奈川 山梨教員会



平塚教会長・奥川達雄先生は、御殿場教会のご出身で、若くして亡くなられたお姉様の「あなたは神様の御用をさせてもらいなさい」という遺言を受けて、御用にいただける決意をされました。

平塚教会に入られてからは、教会の御用と共に、教務・教団の御用にも広くたれました。今回は、先生の御用の底を流れる熱い思いを聞かせて頂きました。

▼改めて命を頂いて…

私は学院卒業後、衛生兵として中国に出征しました。戦友が次々と亡くなる中で、外地で終戦を迎え、生き残った私達は一われわれも死んでいかかもしれない身だ。今後は、この命をかけて、祖国の復興のために尽くそうじゃないか」と熱く誓い合っただけです。

▼平塚へ…

平塚教会の後継は、学院本科在学中に決まっていた。ところが、翌年春が過ぎて日本に復員してみると、終戦一ヶ月前の空襲で建物が焼失したために、平塚教会の方からの申し出によって後継の話は白紙に戻されていたのです。

しかし、私にとっては、焼けた教会を復興していくことは日本を復興していくことだ、という思いで、すぐに平塚へ入らせていただいたのです。

▼今日までの歩みを振り返って…

これまで御用をしてきて一番嬉しかったことですか。それは、夢の中でも神様と語れたことです。

平塚へ来させていたでいて間もない頃、お参りの方が途切れたのでバラックの控への部屋で一息つきました。いつの間にかやらこくこくと居眠りをしていたら、神様の夢を見たんです。その時難儀な問題を抱えたご信者さんのことを願っていたんですが、夢の中でその事を神様と語っているんです。目が覚めた時の感激は何とも言えませんでした。

その頃は若さで純粹に神様に向かっていました。神様に一心に向かっていたら、神様と話ができる。逆に言えば、神様と

話ができている時は、一心が足りないということなんです。

▼今、伝えたい言葉…

今は体力的にも衰えたし、補聴器のお世話になるぐらい耳も遠くなりました。耳にも人の助かりのために働いてくださいと願って、御用に立たせて頂いています。戦争で生き残った私の、授けられたこの命のある限り教師として御用に立ちたいと願っています。

若い人達には「即刻実行に移す信心」をして頂きたいと思えます。例えば、今でも御神酒やご神米やお土といった古い信心は生きていくわけですから、純粹にそれを信じてやってみるとか、人が助かるためには祈ることが大切と聞けば、即実行してみる。そういう信心をして頂きたいものです。

— 浩 —

かりんちゃん、秋園をたずさえて 颯爽と登場！！

家族も続々増殖中！…？



**生神金光大神大祭 日程**

教会名	日程	時間
津久井	10月19日(土)	午後1時30分
横浜西	10月20日(日)	午後1時30分
甲府	10月20日(日)	午後1時30分
鎌倉	10月27日(日)	午後1時30分
登戸	10月27日(日)	午後1時
大明	10月28日(月)	午後1時30分
子安	11月2日(土)	午後1時30分
横須賀	11月3日(祝)	午後1時30分
生麦	11月3日(祝)	午後1時
丸子	11月3日(祝)	午後1時
相模原	11月3日(祝)	午後2時
武蔵小杉	11月10日(日)	午前11時
鶴見	11月11日(月)	午後1時
大磯	11月14日(木)	午後1時
	併開教	四十年記念祭
野毛	11月16日(土)	午後1時30分
南甲府	11月17日(日)	午後1時30分
川崎	11月18日(月)	午後1時
平塚	11月19日(火)	午後1時
小田原	11月23日(祝)	午後2時
神奈川	11月24日(日)	午後1時30分
藤沢	11月30日(土)	午後1時30分
	百年感謝祭・	初代八十年祭

**一東京センターよりお知らせ一**

☆しゅとけん青年セミナー2002

『金光教人としての回答』

あなたにとって宗教ってナニ?

\*日時 10月12日(土) 13:00  
~13日(日) 12:00

\*会場 金光教東京センタービル他  
\*参加費 4000円(社会人) 2500円  
(学生) 1000円(1日のみ)

☆三宅島島民集会の

ボランティア募集

\*日時 11月4日(月・祝)  
10時~15時

\*場所 港区芝浦小学校校庭  
金光教テント

・ポップコーンの模擬店です  
他、こんこうセミナーを10/5、11/2開催  
詳しくはいずれも東京センターまで  
03-3818-6321

**やまがみ通信**

**一連合会よりお知らせ一**

☆第7回金光教を考える会

\*日時 10月27日(日)  
14時~17時

\*場所 神奈川教会(045-441-0557)  
\*テーマ 金光教の活性化(今回で  
最終回です。奮ってご参加ください。)  
お問い合わせは045-583-7400吉田まで

**〈お・が・ね〉**

**ご霊地の雨**

神奈川教会 吉田章一郎

八月二十四日午後七時半頃、ご本部で激しい雨が降った。旅館に行く途中、あまりの激しさに「つちや食堂」前のアーケードでしばらく様子を見ていた。食堂の女将さんが声をかけて下さったので中に入り、せっかくだからとビールを飲み始めた。これから金光駅に行くこうとしていた女性四人のグループも雨宿りをしてきた。二十分ほど経って目の前にタクシーが止まり、お客さんが食事をしに入ってきた。女将さんが「ちようどよかつたです。どうぞ乗られたら」と呼びかけ、その女性グループは喜んで金光駅に向かった。

人はこれを「ラッキー」と言うかも知れないが、小生はそこに神様の意志を見た。とても「ハッピー」な気分であった。

**金光教 神奈川 山梨教会連合会**

発行者 木本紀義

編集責任者 横山光雄

横須賀市深田台三十二番地

金光教横須賀教会内